

1学年だより

上越市立板倉中学校
第7号 7月8日発行
文責 学年主任 金子 均

どうして、勉強しないといけないの？ ～ 子どもを納得させる答えとは… ～

いつの時代も大人を悩ませる子どもの疑問、「どうして勉強しないといけないの？」について、考えてみましょう。

ありがちな答えが「将来のため」というものです。「いい大学に入るためだよ」「今のうちに勉強しておかないと後で苦労するよ」「なりたい職業につくためだよ」という類です。しかし、「将来のためだから」と言われても、たいていの子どもは何年・何十年も先の自分の“将来像”をイメージすることなどできないので、これでは納得しません。では、どんな答えならよいのでしょうか？私なりに考えてみました。

○本来、勉強は楽しいものなのです。

「知らないことを知る」「できないことができるようになる」「なぜだろうと思っていたことの仕組みがわかる」等。人間には、生まれた時から備わっている「知的好奇心」というものがあります。楽しいことは多少の苦労があってもやり続けられますね。

実は、小さい時、みんなは勉強が大好きでした。歩けるようになる（体育）ことが楽しかったのです。話せるようになること（国語）が楽しかったのです。お絵描き（美術）が楽しかったのです。勉強は「やらないといけない」ものではなく、「やりたい」ものだったのです。

○勉強をやめてしまった人

小さい時は、周りと比べていませんでした。比べるのは過去の自分。どんどん「できること」や「知っていること」が増え、勉強が大好きでした。ところがちょっと大きくなると、「Aさんはもうできるのに、自分はまだできない」ことに気付くようになります。人は「自分が優れている」と実感できると楽しいけれど、「劣っている」と実感すると楽しくなくなるのです。このちょっとした「できない」ことを重く受け止め、「勉強することをやめてしまった人」が現れたのです。その人たちは、それから勉強に向き合えず、今、苦しんでいるわけです。その人たちを救う手はあるのでしょうか。

○いろいろな答えがあるけれど…

本やネット上には様々な答えが載っています。いくつかを示しましょう

- 広い視野で世界を見るため
- 子どもの「生きる力」を引き出すため
- 生きるうえで役立つものを選ぶため
- これからの時代に必要な能力を伸ばすため
- “学び方”を知るため
- たくさん失敗して成長するため

残念ながら、すべての子どもたちを納得させる共通の答えは見つけれませんでした。そんな中である人のコラムを見つけました。私は“なるほど”と思いました。参考にしてください。

なぜ勉強するのという私の問いに母は…

この質問をした時の母の最初の回答は「ちょっと待っててね」でした。そしてゆっくりと自分の経験から感じたことを話してくれました。このあとも機会があるごとに母は「自分が勉強してよかった」と思った瞬間を色々と教えてくれました。

その全てに納得したというよりは、自分の疑問に対して「お母さんはこう思っている」とじっくり考えて、丁寧に伝えてくれたことがとても嬉しかったことを覚えています。

どんな素晴らしい回答を返すかよりも、信頼している人が「私の場合はね…」と自分の経験をもとにしっかりと答えてくれる。そのことに何よりも意味があるのだなと感じた出来事でした。